**CDH ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓（2002年以前製造製品）　自由落下現象の復旧方法**

[cdhsashfreefallrepair](#_top)

**Ⅰ.　ｻｯｼがずるずると落ちかける（自由落下する）原因（3例）**

　　**1.**　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝の中に、左右いずれかの　　　　　　　　　**塩ビ樹脂製 ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ**

ｸﾗｯﾁが残されている場合。（右図ｸﾗｯﾁﾛｯｸの状態）　**ﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞ**

**ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞ**

**自由落下**の**現象**としては、この例が最も多く　　　**ｸﾗｯﾁ ﾛｯｸ**

見られます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**ｸﾗｯﾁ ﾛｯｸ解除**

**今回は、この復旧方法を主に説明します。　　　　屋外側**

2.　ｸﾗｯﾁに結び付けられているﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞが解けたか、結び目近くで切れた場合。

この場合、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸと金属の爪で構成されたｸﾗｯﾁ部材が、溝の途中にあるか、又は

溝の下方に落下しています。

この場合は、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰを外し、これに内蔵されているﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞを抜き取り、

ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞの端部を再びｸﾗｯﾁに結び直して、修復する必要があります。

これには、別掲ﾒﾝﾃﾅﾝｽの、**“初期ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓（CDH）のﾊﾞﾗﾝｻｰ、ｸﾗｯﾁの交換方法”**

をご覧ください。

ご参考までに、修理の概要は以下の通りです。

①　追加する作業用具　　☆大きめのﾌﾟﾗｲﾔｰ　☆割り箸程度の長さで丈夫な棒１本

②　ｸﾗｯﾁ部材のﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞ結び目穴に、破損がない場合は、ｼﾞｬﾑｷｬﾘｱｰを外し、ﾊﾞﾗﾝｽ

ﾁｭｰﾌﾞを抜き取ります。

③　ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞを複滑車に掛け直して、その端部をｸﾗｯﾁの結び目の穴に通して固定し、

ｸﾗｯﾁの**ﾛｯｸ爪**を**屋内側**へ向け、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの上部から差し込みます。

　　　ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞの、ｸﾗｯﾁへの接続作業のﾋﾝﾄ!!

　　　④　ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞの端部を大きめのﾌﾟﾗｲﾔｰでしっかりつかみ、長く引出し、ｸﾗｯﾁの

固定穴へ通して結び目を作って固定しますが、結び目を作る作業時、一時的に

引き出したﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞを、仮固定する必要があります。

⑤　この際、準備した棒にﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞを巻き付けて仮固定します。

⑥　ｸﾗｯﾁへの結束が終わったら、慎重にﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞを外します。

　　3.　ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞがもっと奥の、複滑車の辺りで切れた場合

この場合は、溝の中にﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞが垂れ下がっています。

この場合は、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに装着されている、ﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞを新品と交換する必要が

あります。

これには、別掲ﾒﾝﾃﾅﾝｽの、**“初期ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓（CDH）のﾊﾞﾗﾝｻｰ、ｸﾗｯﾁの交換方法”**

をご覧ください。

**Ⅱ.　上記Ⅰ.　1.についての復旧方法を以下に説明します。**

　　1.　ｻｯｼを取り外します。

　　　　取り外し方法は、別掲ﾒﾝﾃﾅﾝｽの、

“**初期ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓（CDH）のﾊﾞﾗﾝｻｰ、ｸﾗｯﾁの交換方法**”を参考にしてください。

この交換方法で採用している“**つっぱり棒**”を用いると、ｻｯｼの脱着が簡単に

できます。

　　2.　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝に残っている**ｸﾗｯﾁ**の位置を、適正位置に設置し直します。

この適正位置（ｻｯｼを設置しやすい位置）は、左右をほぼ同じ高さで、概ね、

①　ﾄｯﾌﾟｻｯｼでは窓の下方から30～50センチ程度

②　ﾎﾞﾄﾑｻｯｼでは、窓の下方から10ｾﾝﾁ位を目安とします。

③　新型のｱﾙﾃｨﾒｯﾄ ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓のように、左右のｸﾗｯﾁ位置を正確に同じ高さに

設定する必要はありませんが、目見当でほぼ同じとします。

3.　ｸﾗｯﾁのﾛｯｸ解除と移動作業

**金属爪の屋外側へ刃先を**

注意!!　 ﾛｯｸの金属爪のあるｸﾗｯﾁは、ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞでｺｲﾙｽﾌﾟﾘﾝｸﾞに　 　**立てて載せ、押し下げる**

繋がっており、このｺｲﾙｽﾌﾟﾘﾝｸﾞが、常に、上方に **屋内側**

向かってｸﾗｯﾁを強い力で引き上げています。

ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝内に、金属色の爪が刺さり、ｸﾗｯﾁがﾛｯｸ

されると、ｸﾗｯﾁはその位置で固定されます。

しかし、ﾛｯｸが解除されると同時に、上方への、急激な

引き上げ力が働きます。　　　　　　　　　　　　　　　**画像3 （両手は水平）**

警告!! !!　　防護用のめがねを必ず着用して下さい。

①　重要なﾎﾟｲﾝﾄ　ﾏｲﾅｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰを両手で水平にしっかりと持ち、ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの刃先を

立てて、画像3のようにｸﾗｯﾁのある溝に入れます。

　　　　②　ﾏｲﾅｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの**刃先**を**縦**にし、ｸﾗｯﾁの**金属色の爪**の、**屋外側寄り**に確実に載せ、

**ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの柄**を**両手で水平にしっかり**と保持し、そのまま**下方へ**ゆっくりと

**押し下げ**ます。

③　これによって、ｸﾗｯﾁの金属色の爪が上向きとなり、ﾛｯｸが外れ、強い上向きの

引き上げ力が働きます。

④　ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの刃先が外れぬよう注意しながら、ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰを変わらず水平に保持し、

ｸﾗｯﾁの設置位置まで移動させます。

　　　　⑤　設置位置まで移動させたら、ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰを握る手を90°、左右いずれかに

ゆっくり回転させ、その刃先で、尖った**金属爪の先**を塩ビ樹脂ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの

溝へしっかりと押し付け、移動をﾛｯｸします。

**⑥　注意!!**　　**ゆっくり**とﾄﾞﾗｰﾊﾞｰに掛ける**力を抜いて**みて、確実にﾛｯｸがされて

いたら、ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰを外します。

4.　ｻｯｼ設置前の準備と点検

①　左右のｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰのｸﾗｯﾁ部分と、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝左右の側面へ、潤滑ｽﾌﾟﾚｰを吹きかけ、ﾛｯｸ爪の戻りとｸﾗｯﾁの上下動をｽﾑｰｽﾞにします。

②　塩ビ樹脂ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの、ｻｯｼの上げ下げでこすれる部分へｼﾘｺﾝｽﾌﾟﾚｰを吹きかけ、上下動の摩擦を軽減させます。

③　左右ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの、ｻｯｼ側面で擦れる部分に変形や破損がないか確認します。　整形可能な部分は、この際に**※　修復**します。

**※**　**修復**方法は、“初期ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓（CDH）のﾊﾞﾗﾝｻｰ、ｸﾗｯﾁの交換方法”を

ご覧ください。

　　5.　ｻｯｼの組み込み

“初期ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓（CDH）のﾊﾞﾗﾝｻｰ、ｸﾗｯﾁの交換方法”をご覧ください。

こちらには、ｻｯｼ組付け時の手順が詳しく書かれています。

　　　参考技術資料　　左右ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに内蔵されるﾊﾞﾗﾝｻｰの種類の見分け方と特徴

1.　CDH窓の種類特定必要　　屋外側の、建物取付け枠の、外形寸法　縦ﾐﾘｘ横ﾐﾘ

2.　ｸﾗｯﾁ（ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ）の色　　　白、黒、青、茶の4種類で順にｽﾌﾟﾘﾝｸﾞが強くなります。

3.　金属ﾊﾞﾗﾝｽ ﾁｭ-ﾌﾞの下方正面の刻印　　高さ寸法を指示する2桁の数字

4.　続いて順番にR（ﾚｷﾞｭﾗｰ）、HD（ﾍﾋﾞｰﾃﾞｭｰﾃｨｰ）、EHD（ｴｸｽﾄﾗ ﾍﾋﾞｰﾃﾞｭｰﾃｨｰ）、SHD

（ｽｰﾊﾟｰ ﾍﾋﾞｰﾃﾞｭｰﾃｨｰ）の刻印があります。

3/28/2016